

# 27Q-pm061

薬学部 1 年次生の医療人教育 ー不自由体験ー

○前田 光子<sup>1</sup>, 植村 真知子<sup>1</sup>, 山岡 由美子<sup>1</sup>(<sup>1</sup>神戸学院大薬)

【目的】薬学生の医療人教育の目標のひとつとして、生命に関わる職業人にふさわしい態度を身につけること、がある。態度教育には、座学・ロールプレイ・ディベートなどの方法があるが、身を持っての体験は最高の教材である。神戸学院大学では、車椅子の乗車や補助体験をすることによって、健常時とは異なる状態にある患者の気持ちを感じ取り、相手の立場に配慮した態度を身につけることを目的とした実習を行っている。

【方法】2 人一組で自走用車椅子を用い、およそ 1 時間、屋内外で手動ドアの通過やスロープ走行などを体験した。その後の小グループ討論では車椅子利用者の立場から、路面状況などの物的な面と精神的な面について、まず問題となる点をあげ、次にそれらの具体的な解決策を考え発表を行った。授業終了後に到達目標『不自由体験を通して患者の気持ちについて討議する』『保健・福祉の重要性について考えを述べるができる』について授業評価アンケートを行い、目標への達成度を、0 から 100% 表記の 10% 刻みで調査した。

【結果・考察】学生 258 名からのアンケート回収率は 91% (233 件) であった。『不自由体験を通して患者の気持ちについて討議する』については、到達度 100% = 17%、90% = 31%、80% = 37%、70% 以下は 14% であった。『保健・福祉の重要性について考えを述べるができる』については、到達度 100% = 13%、90% = 23%、80% = 42%、70% 以下は 21% であった。保健・福祉とのかかわりについて考えるという点では十分とは言えないが、社会的弱者や患者の立場を理解しようとする態度まではこの実習で到達できた。今後は指導内容についてさらに検討を加えていく予定である。